

令和7年度「障害に係るダブルケア」に関する調査の分析報告書（概要版）

1. 目的

「障害に係るダブルケア」状態にある方の困りごとやニーズ等を明らかにし、支援策のための基礎資料を得ることを目的として実施する。

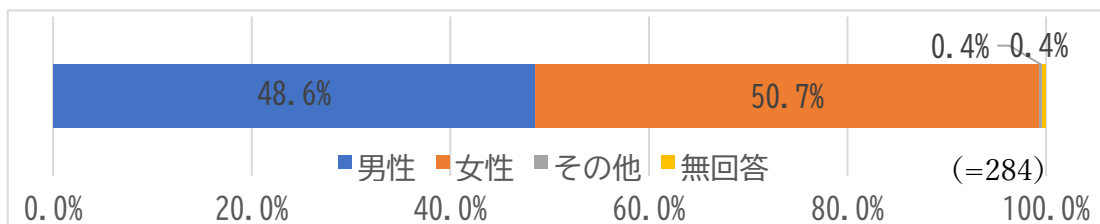
2. 調査の概要

- (1)調査期間 : 2026 年1月7日～1月30日
- (2)調査対象者 : 滋賀県心身障害者扶養共済制度加入者および、扶養共済年金受給者の年金管理者（親族でないものを除く）
- (3)回収率 : 33.4%（回収数 309 通（有効回答 284 通、無効回答 25 通））

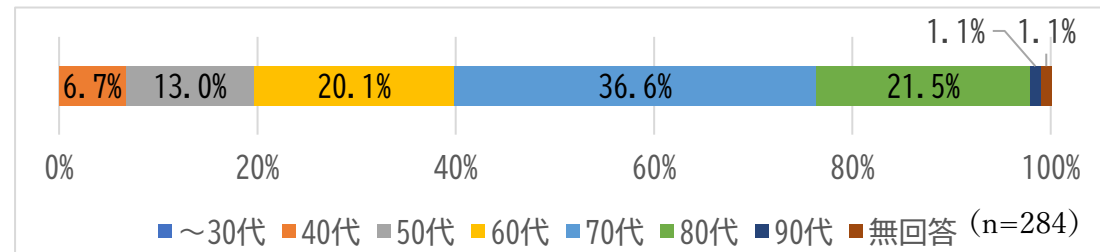
3. 回答者のプロフィール

- 男女別の回答割合は、半数ずつとなっている。
- 回答者の年齢層で最も多いのは70代であり、36.6%となっている。

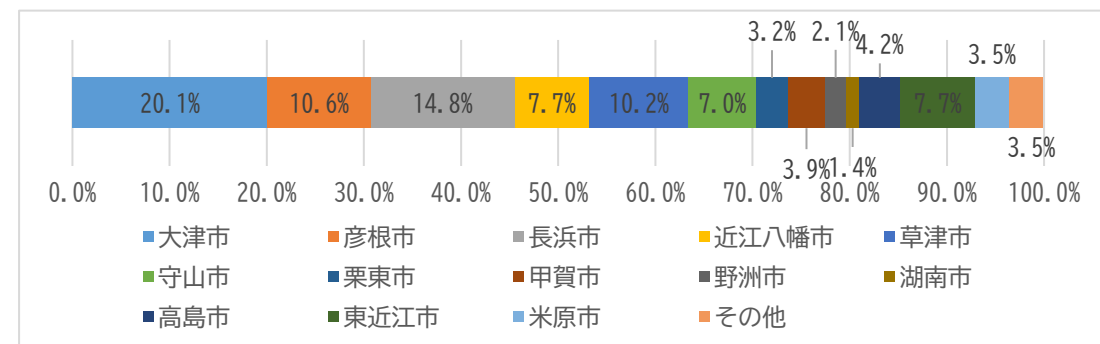
(1)性別 (N=284)



(2)年齢 (N=284)



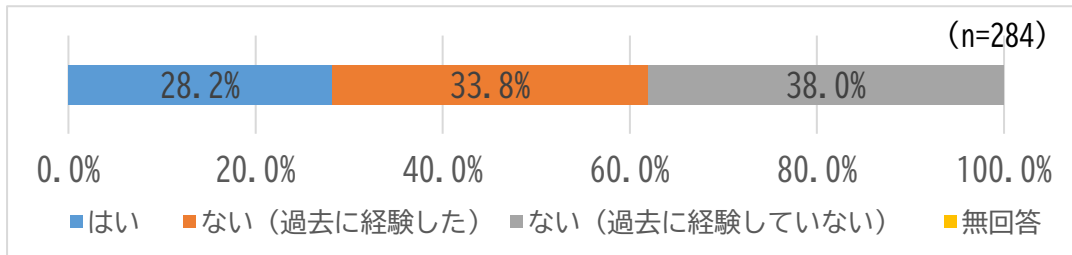
(3)居住地 (N=284)



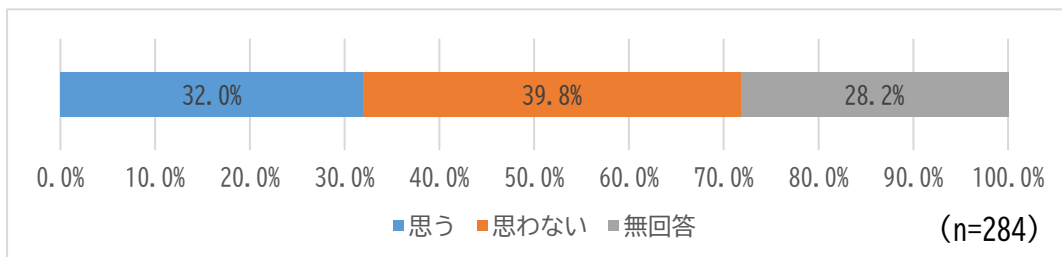
4. ダブルケアの状況

- 回答者のうち約3分の1にあたる80名が、現にダブルケアの状況にあると回答。
- 自身や配偶者が高齢となってきたことを理由に、約3割の方が3年以内に、回答者もしくは回答者の家族がダブルケアになると考えている。

(1)ダブルケアの状況 (N=284)



(2)3年以内に、ダブルケアの状況となるかどうか(N=284)



5. ダブルケアの困りごと

- 「体力的負担」が23.8%と最も多く、続いて、「精神的負担」が22.7%となった。年齢層が上がるにつれて、体力的負担の割合が高まっている。
- 生産人口年齢の激減に伴い、人材確保がより困難を極める。高齢化と障害のダブルケアによる負担を家庭では受け止めきれず、社会構造そのものに影響を与えてくることが想定される。

(1)困りごとや不安について (N=428)

